

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.8
平成24年6月4日

全校朝礼の話より（5月28日）

アメリカでは多くの小学校で、子どもたちはそうじをしません。理由は大きく二つ。一つ目は、「うちの子をそうじ人にさせるつもりはない」と言う保護者の反対。もう一つは、そうじをする人たちから、「私たちの仕事を奪うのか」という抗議が出るからです。うらやましいですか？ 校長先生は、全くうらやましいとは思いません。日本では全ての学校で、子どもたちがそうじをやりま

す。校長先生は、素晴らしいことだと思っています。

その理由として、一つのお話をします。

「シュリハンドク～おそうじ～」

むかしむかし、2500年ほど前のお話です。インドという国に「シュリハンドク」という名前のお坊さんがいました。このお坊さんは、朝聞いたことでも夜になるともう忘れてしまいます。自分の名前も覚えられなくて、背中に自分の名前を書いてもらい、人から名前を聞かれると背中を見せて教えています。

シュリハンドクは、そういう自分が情けなくなって、ある時、お師匠様の所へ行って「私は、もうお坊さんをやめたいです」と相談しました。するとお師匠様は「何も心配することはいりません」と言って、彼に1本のほうきを渡し、「これできれいにしましょう」とおっしゃいました。

シュリハンドクは、それから何年も、そうじをし続けました。ある日、いつものように庭そうじをしていると、お師匠様に来て、「ずいぶんきれいになりましたね。だけど1か所だけ汚い所がありますね」と声をかけてきたのです。そこで、シュリハンドクは、不思議に思い「お師匠様、どこが汚いのでしょうか？」と尋ねましたが、教えてくれませんでした。「はて、どこなんだろう？」と思いながら、それからもずっと「もっときれいにしよう」と言いながらそうじを続けたのです。

ある時、子どもたちが遊んでいて、シュリハンドクがせっかくきれいにそうじをした所を汚してしまいました。シュリハンドクは思わずほうきを振り上げ怒鳴りました。「こら！ どうして汚すんだ。」その瞬間、彼は本当に汚れている所に気がつきました。それは、自分の心だったのです。

その時、お師匠様がシュリハンドクの後ろに立っていて「これで全部きれいになりましたね。」とおっしゃってくれたのです。そうじすることは「そうじがイヤ」だとか、「さぼりたい、もっと楽をしたい」とか、「人のことを悪く言ったり、威張りしたい」という心の中の汚れをきれいにするということに気がついたのです。

お師匠様の教えがわかったシュリハンドクは、ますますそうじに精を出し、人々から尊敬される立派なお坊さんになったのです。

今日は、そうじにちなんだお坊さんのお話をしました。そうじを一生懸命に行うことは、もちろん、その場所をきれいにする事なんですが、実は「自分の心もきれいにする」ということだったんですね。そういう、「心をきれいにする」ということが、実は将来、みなさんが大きくなる時にどうしても大事になってくる事なんです。ですから、日本の学校では、子どもたちが一生懸命そうじをするということを、校長先生は素晴らしいことだと思ふのです。

プール清掃ありがとうございました！

5月28日（月）、PTA執行役員、スポーツ委員の方々が、プール清掃（トイレ・通路・階段等）をやってくださいました。子ども達のために、心を込めて隅々まで本当にきれいにやってくださいました。ありがとうございました。

プール清掃は桜小のPTA活動の伝統になっているようですが、上記の「自分の心をきれいにする」という、精神性の高い活動につながっていくように思います。



